

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A3 片面1枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは5MB以下としてください。

※事務局記入欄

【様式2】

No. D-117

部門名: 校内研修プログラム 開発・実践部門
エントリー名: 静岡県総合教育センター 岩本 昭恵
 平成30年度 第3回 副校長・教頭等研修

活動名: 研究と研修の往還 ～研究協力校や年次別研修等での実践～

解決すべき課題: 新学習指導要領で育成を目指す資質・能力の本質的な理解

新しい時代に必要となる資質・能力の育成について、各教科の特質に応じた「見方・考え方」や「教科で育成したい資質・能力」の本質的な理解が県内教員に不十分である。また、副校長・教頭等研修の講義内容である「資質・能力をベースとした授業改善」について、教科の具体でわかりやすく示していく。

目標: 各教科等の特質に応じた「見方・考え方」と教科で育成したい資質・能力の本質的な理解の促進

方針: 各教科の特質に応じた「見方・考え方」や「教科で育成したい資質・能力」を子どもの具体的な学びの姿でイメージするために、静岡県総合教育センター発行の「主体的・対話的で深い学び」実現のためのサポートブックを活用し、中学校研究協力員と音楽科の特質に応じた「授業設計アイデアシート」や「題材構想」を作成する。また、小学校研究協力校と「授業設計アイデアシート」と「学習過程可視化法」を用いた校内研修の在り方を研究し、研究と研修との往還を図る。

活動内容: 授業構想や題材構想づくりの開発から校内研修での授業参観と事後研修実施までのつながり

- ① 研究協力員と共に、音楽科の「見方・考え方」を働かせている姿や「育成したい資質・能力」を示した題材構想を作成し、研究中間報告で提示した。なお、この題材構想は、年次別研修でも活用している(図1)。
- ② 授業設計アイデアシートの「解決したい課題や問い」「考えるための材料」「対話と思考」「学習の成果」の4項目を基本としつつ、音楽科の特質に応じた授業設計アイデアシートを指導主事の学習会で提案する(図2・3)。
- ③ 研究協力校の研究授業で、「授業設計アイデアシート」を活用した授業案を作成してもらう。授業参観の方法として、一人の児童に対して一人の教員を決めておき、行動や発言、つぶやき、表情や視線、思考の流れ等を児童の学習過程の全てを見取っていく。事後研修で「学習過程可視化法」を実施し、学習過程の児童の思考の流れや学びから授業改善を考える研修を実施する(写真1・2・3)。さらに、課内で協議し、研究協力校に授業改善の視点がより明確になるために「学習過程可視化法」の改善案を提示する(図4)。

活動の成果: 指導主事ならびに小学校研究協力校や中学校研究協力員等の意識の向上

- ① 研究協力員と題材構想を開発して作成したことで、研究協力員から「資質・能力を育成することを目的として授業に臨みたい。そのためにも、様々な領域や系統性も意識した指導計画の見直しの必要性を感じた。」という感想があり、事後協議にて資質・能力を育成することの重要性を共有することができた。
- ② 中央研修の内容伝達を含めた学習会を通して、指導主事の意識改革につながった。各教科の特質を生かした題材構想図や授業設計アイデアシートを開発したり、新しい講義・演習等を考案したりするなどの工夫により、年次別教科研修の内容が充実し、研修評価が上がった。
- ③ 研究協力校で昨年度実施したアンケート結果によると、「子どもの思考の流れを予想しながら本時を構想するようになった」と回答した教員が4月70%から11月95%に増加した。また、「単元構想時に子どもの思考の流れを予想するようになった」という項目も、4月50%から11月85%に増加した。また、「子どもの学びの変容を捉え、授業者のみでは気づかない視点にも気づくようになった。」と回答した教員が95%になり、学習過程可視化法を用いた事後研修の有効性について実感している。

アピールポイント(アイデアや工夫): 研究協力校との「学び手の視点で授業をつくる」校内研修の開発

- ・ 「学習過程可視化法」は、新学習指導要領で求められている「学び手の視点で授業をつくる」という視点で事後研修が実施できるため、研究協力校全体の意識改革が進み、授業実践力が向上している。
- ・ 「授業設計アイデアシート」と「学習過程可視化法」の項目の一致により、授業改善の視点が明確になる。
- ・ 研究協力校の研究推進委員会に加わり「学習過程可視化法」の改善案を提示し一緒に協議している。

図1: 音楽科特有の「見方・考え方」と育成したい「資質・能力」を子どもの言葉で記載した題材構想

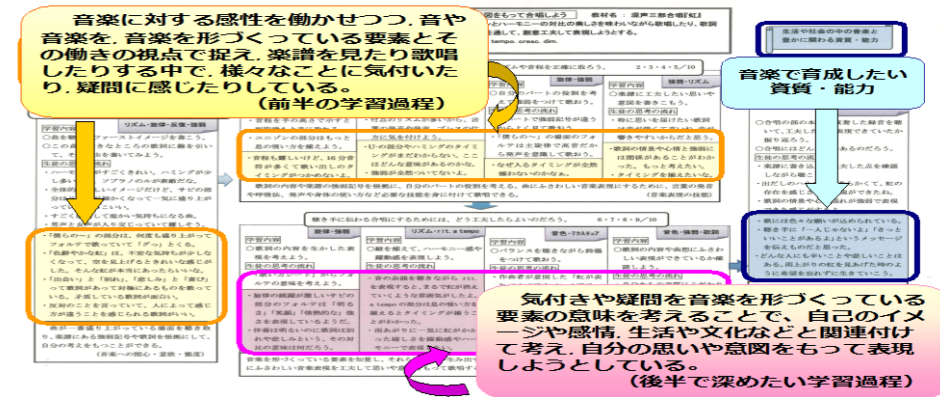


図2: 全教科共通の「授業設計アイデアシート」

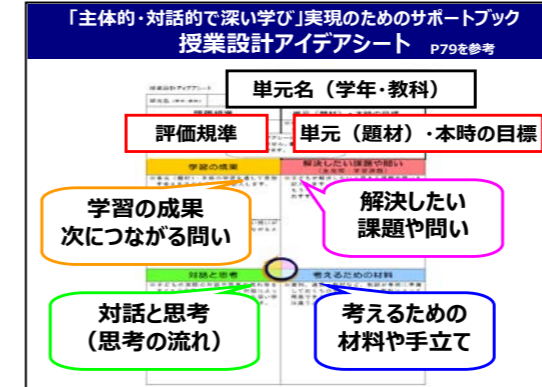


図3: 音楽科用に開発した「授業設計アイデアシート」

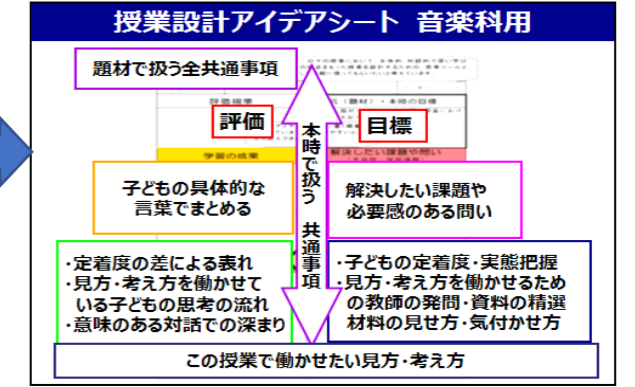


写真1: 学習過程可視化法による授業参観

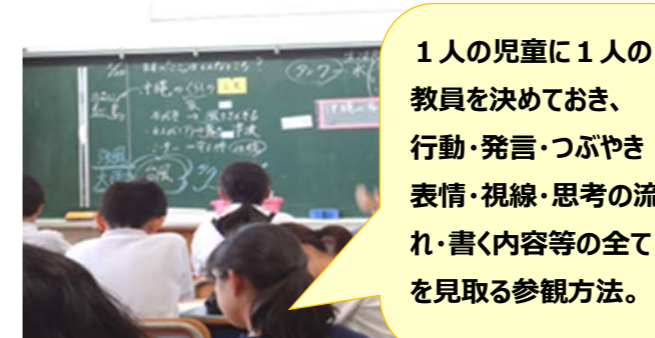


写真2: 事後研修

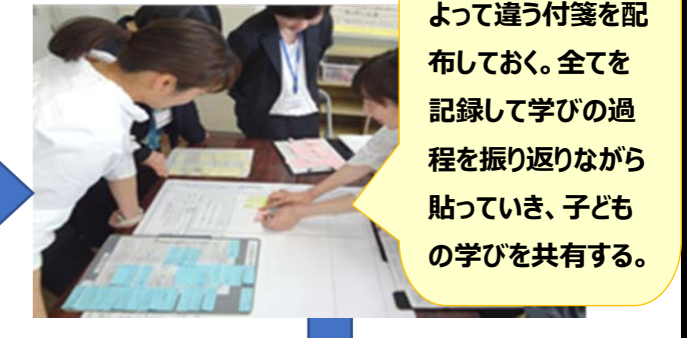


図4: 学習過程可視化法の改善案

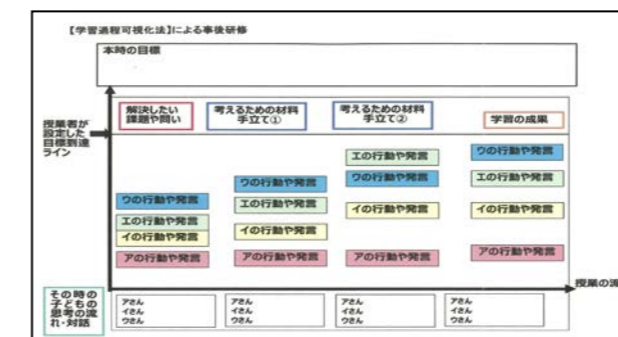
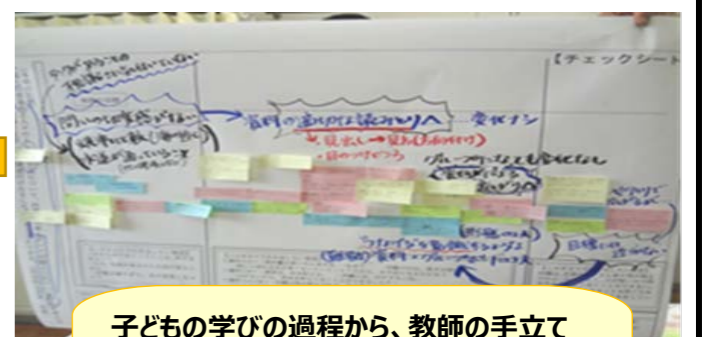


写真3: 事後研修を各グループで共有



研究協力校と共に、さらに授業改善の視点が明確になるための改善案を提示し、研究している。

子どもの学びの過程から、教師の手立ての有効性や必要感のある問いなど、授業改善について協議を深めていく研修方法。